

月刊 AEHA 通信 2022 年 12 月号

◆◆◆ 今月の主な内容 ◆◆◆

- ◇トピックス : 「スマートマスターがいるお店・オフィス」 ニュースリリース他
- ◇主な委員会活動等 : 省エネ対策委員会関連他
- ◇定点観測データ : 家電リサイクル法対象4品目引取実績他
- ◇協会インフォメーション : 今後の行事予定
- ◇溜池ボイス : 10本目の勇み足



■□■ トピックス ■□■

◆ 「スマートマスターがいるお店・オフィス」ニュースリリース (12 月 1 日)

2022 年9月(第 43 回)資格認定試験の結果、11 月1日付にて新たに 374 名のスマートマスターが誕生しました。これでスマートマスターの資格保有者数は累計 8,833 名となり、全国 47 都道府県の 1,171 箇所の店舗・オフィスにて消費者の皆様の「住まい」と「暮らし」のスマート化を支援する体制がさらに充実しました。With コロナを背景に、変化の時代を牽引する人材の育成は喫緊の課題となっています。今まさに、スマートマスターが活躍する時機が到来しています。



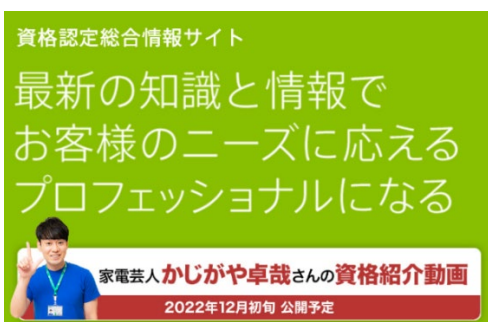
「スマートマスターがいるお店・オフィス」は、認定センターホームページで都道府県別に公開しています。

<https://www.aeha.or.jp/nintei-center/consumer/smartmaster/consulting/>

◆ 資格認定制度のプロモーション活動

家電製品協会では、吉本興業所属家電芸人「かじがや卓哉」氏を起用し、一般消費者に対し広く資格を PR して認知度を高めることにより、資格保有者の方の価値をも高め、さらなる3資格の受験者獲得を目指します。

1. 家電製品総合アドバイザー資格を保有するかじがや氏による資格認定制度の紹介動画を制作し、YouTube 吉本興業チャンネルにアップしました。なお、当動画は、12 月1日より同チャンネルと認定センターHPトップのバナーから視聴可能になりました。
2. 次回、2023 年3月(第 44 回)資格認定試験リーフレットにも掲載しました。
3. 業界紙への記事・広告(電波・電化新聞など)やWebニュースリリースなどにも順次掲載予定です。

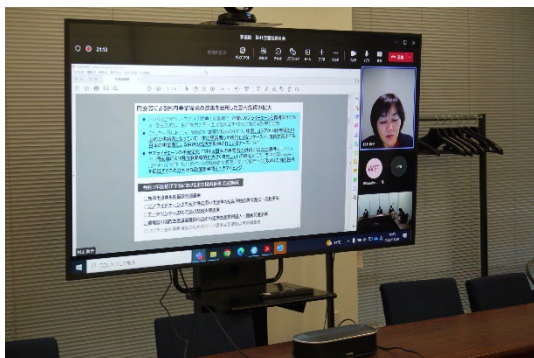


<参考情報>

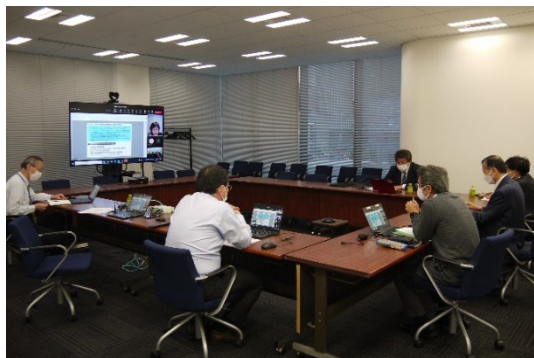
- ・家電製品協会 認定センターHP : <https://www.aeha.or.jp/nintei-center/>
- ・第 44 回資格認定試験リーフレット : https://www.aeha.or.jp/nintei-center/uploads/44th_reaf.pdf

◆第41回運営委員会の開催（11月28日）

11月28日に第41回運営委員会を開催しました。冒頭、来賓の経済産業省商務情報政策局情報産業課の村上課長補佐から、令和4年度補正予算と次世代半導体開発プロジェクトの進捗についての説明をいただきました。その後、伊藤専務理事の挨拶に続き、各部門長より近況の活動内容について報告を行いました。



経産省・村上課長補佐挨拶



家製協事務局

■□■主な委員会活動等■□■

<家電業務部関連>

◆省エネ対策委員会関連

省エネルギー対策委員会傘下の啓発WGを開催いたしました。

○第6回省エネ家電温暖化防止啓発WG(11月10日)

主な議題として、2023年度版スマートライフおすすめBOOKについて審議しました。

1. 既存ホームページ「Information」項目の更新
2. キャラクターデザインについて
3. 電子版の機能について

○第7回省エネ家電温暖化防止啓発WG(11月24日)

主な議題として、2023年度版ホームページリニューアルについて審議しました。

1. トップページデザイン(案)
2. おすすめMapのデザイン(案)
3. キーワード検索について
4. アンケートツールに関して

◆第4回製品安全委員会(11月25日)

本委員会は、製品ライフサイクル全般にわたる製品安全確保の取り組み、個社では解決の難しい共通課題についての調査・研究、並びに施策の実施を目的として活動をおこなっています。

1. 2022年度活動

- (1)リチウムイオン電池、バッテリー搭載家電製品事故低減について報告
- (2)リコール製品の回収促進と再発防止

10/21 第2回リコールリスクレベル基準検討WG報告をしました。

- ① リコール対応レベルに従った事業者、行政、消費者の対応をどのようにすべきかを議論
- ② レベル基準(回収率の計算式)に含まれる「家電製品残存率」の直近データを把握するための調査を2023年度に実施すべきかどうかを審議

2. IoTガイドライン事業 — 10/24 第1回ユースケース・リスクシナリオ検討WGの報告
本年度の事業計画と第2回WGに向けた依頼事項について共有
3. 製品事故調査報告書の運用見直しについて
各工業会から元データを事務局でまとめている報告書について、各工業界や各企業の活用実態調査と必要性を議論

◆第5回 UD技術委員会(11月11日)

本委員会では、UD関連のJIS、ISO原案作成委員会に委員を派遣し、業界意見の反映を図っています。また、UD関連に取り組む関係機関との意見交換を通じて政策の動向把握と課題発掘に努めています。

1. 2022年度活動進捗状況、日程、運営体制について
2. (家製協)ICT連携配慮指針に関する有識者からのヒアリング結果を反映し、ガイドライン修正版として10/27にサイトへアップ
3. バイブレーション機能による報知方法の研究——評価アプリの仕様と評価方法の検討
11/18 早稲田大学 人間科学研究科と振動に関する基礎的な情報交換、意見交換を実施
4. 「新たな日常生活に向けた製品及びサービスに関するアクセシビリティ配慮」に関する国際標準化検討会
UD技術委員会の取組状況を説明

◆第7回 流通EDI標準化推進委員会(11月16日)

本委会では、家製協EDI標準化仕様の更新事案に関する調査研究をおこなっています。主な議題は以下のとおりです。

1. 啓発・PR関連及び商品情報検討WG活動について
2. ISDN終了に伴うイエローブック内容の改訂(案)について
3. 流通企業動向について

<環境部関連>

◆第57回 製品アセスメント委員会(11月18日)

主な議題は以下のとおりです。

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 2022年度事業計画推進状況について

○2022年度 第5回 リサイクル配慮設計検討WG(11月9日)

主な議題は以下のとおりです。

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 活動計画の推進状況について

◆家電リサイクル委員会

○第8回 2022年度普及広報WG(11月25日)

主な議題は以下のとおりです。

1. 「3秒でえらべる家電の捨て方」豆知識の新コンテンツ案について
2. 「3秒でえらべる家電の捨て方」豆知識の新コンテンツ制作スケジュールについて
3. 「3秒でえらべる家電の捨て方・豆知識」の10月度アクセス件数について
4. WebサイトのQ&Aの統合・改訂について
5. スケジュール・その他



○第2回 2022 度版家電リサイクル年次報告書作成WG(11 月 25 日)

主な議題は以下のとおりです。

1. 2022 年度版年次報告書の企画(案)及び構成(案)について
2. データ収集状況について
3. スケジュール・その他

<事業協力室>

◆2023 年度不法投棄未然防止事業協力及び離島対策事業協力内定について

第 58 回第三者委員会(11 月 18 日)に於いて以下のとおり内定いたしました。

1. 不法投棄未然防止事業協力 応募 141 件 内定 140 件(内新規 11 件、辞退 1 件)
2. 離島対策事業協力 応募 19 件 内定 19 件(内新規 1 件)

<指定法人業務センター>

◆普及啓発活動(4号業務)について

事業者排出の家庭用エアコン回収率向上に向けた普及啓発活動の推進として、日本賃貸住宅管理協会主催による「日管協フォーラム」が、11 月 15 日明治記念会館で開催されました。

当日は、ブースを出展しご来場の方々に管理物件の「家庭用エアコン」の適正処分についてのご紹介と、パンフレットの配布を行いました。



<認定センター関連>

◆スマートマスター試験問題検討ワーキング キックオフ(11 月 14 日)

主な報告、審議事項は以下のとおりです。

1. 2022 年9月(第 43 回)資格認定試験の実施結果概要
2. 2023 年3月(第 44 回)資格認定試験に向けて問題策定、担当割、問題の解説記述について
2023 年3月(第 44 回)資格認定試験 スマートマスター試験に関する具体的審議、試験問題策定方針の確認

◆11 月度 情報発信・教育部会(11 月 21 日)

2023 年3月(第 44 回)資格認定試験の試験問題作成、スマートマスター2023 年版参考書制作の活動スケジュール、マイスタディ講座のコンテンツの方向性、ならびに、今後の情報収集ポイントなどについて審議しました。

1. 第 44 回資格認定試験について
2. 資格認定試験の周知・広報について
3. 問題作成 & スマートマスター参考書 日程
4. スマートマスターの問題 & 解説集のリニューアルについて
5. 11 月収集情報
6. マイスタディ講座「ここが要点」11 月原稿ほか



◆ No. 1 スマートマスター試験問題検討ワーキング(11月29日)

主な報告、審議事項は以下のとおりです。

1. 認定センター報告
2. 試験問題原案に関する審議
「スマートハウスの基礎」、「スマートハウスを支える機器・技術の基礎」について

<家電製品 PL センター関連>

◆ 第 60 回 家電製品 PL センター連絡会 (11 月 1 日)

当協会賛助会員である関係工業会との「家電製品PLセンター連絡会」を開催しました。

主な議題は下記のとおりです。

1. 2022 年度上期活動報告
2. 工業会別・製品別相談受付件数について
3. 2023 年度賛助会費について

◆ 宮崎県消費生活センター情報交換会 (11 月 17 日)

宮崎県消費生活センター「第8回法律研究会及び情報交換会」に研修講師として参加しました。

主な議題は下記のとおりです。

1. 家電製品PLセンターの概要
2. 2022 年度上期活動報告
3. 相談事例の紹介
4. 質疑応答

◆ 製品分野別 PL センター交流会 (11 月 18 日)

製品分野別のPLセンター(12 機関)交流会に参加しました。各PLセンター及び消費者庁消費安全課の参加がありました。主な議題は下記のとおりです。

1. 各PLセンターの活動状況の報告
2. 意見交換 コロナ禍の相談体制、相談内容の変化について

■ □ ■ 定点観測データ ■ □ ■

◆ 家電リサイクル法対象4品目引取実績(11 月度)

2022 年 11 月度の4品目の引取実績は、以下のとおりです。

(台数:千台)

品 目	当 月		年度累計	
	台数	前年比	台数	前年比
1.エアコン	167	101%	2,946	106%
2.テレビ 計	308	98%	2,473	96%
① ブラウン管式	55	83%	440	81%
② 液晶式・プラズマ式	253	102%	2,033	100%
3.冷蔵庫・冷凍庫	248	96%	2,472	100%
4.洗濯機・衣類乾燥機	298	92%	2,690	95%
合 計	1,020	96%	10,581	99%



(うち指定法人)

(台数:千台)

品 目	当 月		年度累計	
	台数	前年比	台数	前年比
1.エアコン	2	80%	25	93%
2.テレビ 計	19	93%	151	90%
① ブラウン管式	5	84%	40	83%
② 液晶式・プラズマ式	14	97%	111	93%
3.冷蔵庫・冷凍庫	19	88%	171	87%
4.洗濯機・衣類乾燥機	7	91%	61	89%
合 計	47	90%	407	89%

◆家電製品PLセンター相談等受付件数実績(11 月)

2022 年 11 月度の相談受付件数は、144 件(累計 1,414 件)です。

詳細は、家電製品 PL センターホームページの月次インフォメーションを参照願います。

<https://www.aeha.or.jp/plc/houkoku/>

◆家電製品国内出荷額の月別・年度別推移データを更新

2022 年9月度実績と年間推移を、協会ホームページに掲載しました。

<https://www.aeha.or.jp/about/pdf/shukkasui202209.pdf>

■□■協会インフォメーション■□■

◆今後の行事予定

年	月 日	時 間	行 事	主な議題等	場 所
2023	2月20日(月)	15:00～17:00	第42回運営委員会	理事会・評議員会事前説明 部門別活動報告	家製協 第1・2会議室 & インターネット会議
	3月 3日(金)	15:00～17:00	第21回理事会	2023年度 事業計画・収支予算等	家製協 第1・2会議室 & インターネット会議
	3月15日(水)	15:00～16:30	第20回評議員会	報告事項 (2023年度事業計画等)	家製協 第1・2会議室 & インターネット会議
	5月19日(金)	15:00～17:00	第43回運営委員会	理事会・評議員会事前説明 部門別活動報告	家製協 第1・2会議室 & インターネット会議
	5月26日(金)	15:00～17:00	第22回 理事会	2022年度 事業報告・決算報告	家製協 第1・2会議室 & インターネット会議
	6月15日(木)	15:00～16:30	第21回 評議員会	2022年度 事業報告・決算報告 理事選任	ザ・キャピトルホテル 東急
		17:00～17:15	第23回 理事会	代表理事選定	
		17:30～19:00	第 4 回家電産業交流会	理事長挨拶	

◆10本目の勇み足

先日、テレビを観ていますと、ゴルフの解説者が、「ゴルフって、メンタルな要因が大きく左右するスポーツなんですよね」と、いかにも凄い発見をしたかのようなコメントを耳にしましたが、じゃあ逆に、メンタルが左右しないスポーツってあるの？と思いました。大相撲でも、解説の北の富士親方がダメ大関の集中力を叱責する時の様に、全てのスポーツ、特に個人競技になるほど頑強なメンタルが要求されるのは同じではないでしょうか。

同じ「棒」でも筆者が振るのは竹の棒。その教えに「やってはいけない四つの戒」があります。「驚」は予期せぬ動作への驚き。「懼」は恐怖の念。「疑」は相手の見定めができない状態。「惑」は迷いの事で、人との対戦時、これらのいずれかでも心中に起こると精神が乱れ、呆然自失を招き、敏速な動作の判断を失します。

筆者の道場では20代～70代、まさに老若男女が入り混じって剣を合わせますが、20代の剣士と単に打突の早さだけを競うとこっちが劣るのは当然です。それでも彼らと立ち合いができるのは間合いの攻め具合。つまり「四つの戒」をいかに仕掛けて、メンタルに相手を崩して隙を突く。これが年齢というハンディを超えて太刀打ちする術技であり、剣道の醍醐味です。

先月、昇段審査を受審した時のことです。4人にひとりという実技審査を通過し、意気揚々と二次審査の日本剣道形(カタ)に挑みました。四段からは高段位ゆえ、小太刀を含む全10本の演武が要求されます。9本目まで難なくこなした筆者は気がせいたのか、10本目で相手方が下段に構える前に先に足が出てしまいました。とっさに戻しましたが、頭の中はもう真っ白。その後の太刀筋が合わず「万事休す」。眼の前が真っ暗になった時、相手方からの「やり直しましょう」の冷静なひと言で我に返りました。



右:筆者 東京都剣道連盟 HP より

結果昇段は叶いましたが、あの時あのひと言がなければと、今でも冷汗ものです。「驚」と「惑」に陥った己の精神の未熟さをつくづく思い知らされた一日でした。これから4年後の五段に向けて、「心技体」一層の精進を重ねていくつもりです。



本メールは一般財団法人家電製品協会の賛助会員の皆様に配信しています。

記載された内容を許可なく転載・複製することを禁じます。

【配信停止方法】

本メールの配信の停止をご希望される方は、会社(団体等)名、氏名及び「配信停止を希望する」旨を本メールの返信にてご連絡ください。



〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-7-1 霞が関東急ビル 5階 代表 tel.03-6741-5600

